

室蘭工業大学-学報

NO.682



デジタル・キャンパス推進スチューデントアンバサダー「M-COINS」と
学生広報スタッフ「むろこーほー」の合同任命式の様子
(4ページに関連記事あり)

2026年 8 月号

目 次

◇ トピックス ◇

日本学生支援機構海外留学支援制度（協定受入）奨学金プログラム：台湾国立 屏東大学を対象とした研修プログラムを実施……………	1
第35回 蘭岳セミナーを開催……………	3
デジタル・キャンパス推進スチューデントアンバサダー「M-COINS」と 学生広報スタッフ「むろこーほー」の合同任命式を行う……………	4
文部科学省「AI for Science萌芽的挑戦研究創出事業（SPReAD）」に本学から 3名が採択……………	6
第54回蘭岳コンサートを開催……………	7
「SCSKのふるさと納税」による寄附募集開始に伴う合同記者会見を開催……………	8
マラウイ大学FIT-Hubと室蘭工業大学クリエイティブコラボレーションセンターが MOUを締結……………	9
JST次世代研究者挑戦的研究プログラム令和7年度の成果報告&令和8年度の トップオブトップアカデミーの公募説明会を開催……………	10
Microsoft 365 Copilot 活用の全国コンペ「Microsoft 365 Copilot Cup 2026」で準優勝…	12
本学修了生と教員がロボティクス・メカトロニクス講演会2026（ROBOMECH2026） において複数の賞を受賞……………	13
総務省「持続可能な電波有効利用のための基盤技術研究開発事業（FORWARD）」に 本学から2課題が採択……………	15
寄附講座「道路防災・維持管理工学講座」設立記念シンポジウムを開催……………	16
台湾国立屏東大学 陳永森学長らが室蘭工業大学を表敬訪問……………	17

◇ 外部資金 ◇

民間等との共同研究の受入れ……………	18
受託研究等の受入れ……………	19
その他の補助金の受入れ……………	20
奨学寄附金の受入れ……………	21

◇ 人 事 ◇

人事異動……………	22
-----------	----

◇ 会 議 ◇

学内各種委員会等の開催……………	23
------------------	----

◇ 日 誌 ◇

学内行事・学外行事……………	24
----------------	----

◇ 人物図鑑 ◇

室蘭工業大学人物図鑑 part.53～54……………	25
----------------------------	----

トピックス

日本学生支援機構海外留学支援制度（協定受入） 奨学金プログラム：台湾国立屏東大学を 対象とした研修プログラムを実施

令和 8 年度日本学生支援機構海外留学支援制度（協定受入）に、昨年度に続き採択され、台湾国立屏東大学との連携による「Unity Bridge：課題解決型学習を通じた日台協働によるグローバル情報人材育成プログラム」及び「台湾人学生が考えるウレシパーアイヌ文化研究」の 2 プログラムを、令和 8 年 6 月 15 日（月）～30 日（火）の 16 日間（一部合同）で実施しました。

国立屏東大学からは情報学部、応用日本語学科、英語学科の学生 17 名と国際事務所職員 1 名が来学し、本学からは過去に屏東大学研修へ参加した学生や国際交流センターの留学生との交流バンクに登録している学生 17 名、合計 34 名が参加し日台学生によるプロジェクトワークを中心に、多様な学習活動を展開しました。



松田学長に記念品贈呈



ウボポイにて記念撮影



寺岡先生（前列左から 3 番目）と屏東学生



ロボットアリーナにて記念撮影



港の文学館にて記念撮影



修了証授与式

第35回 蘭岳セミナーを開催

令和 8 年 6 月 19 日 (金) に室蘭工業大学 大学会館多目的ホールにおいて、第35回蘭岳セミナーを開催し、教職員、学生及び市民約160名（オンライン参加含む）が参加しました。

今回は、三井金属株式会社 レアマテリアル事業部 技

術開発専門部長の山口靖英氏を講師にお招きし、『今だからこそ正しく知って欲しい「レアアース」の現状』と題して、レアアースとは何かを資源、精製技術、利用分野の面からわかりやすくご講演いただき、参加者は興味深く聴き入っていました。



講演する山口氏



会場の様子

デジタル・キャンパス推進スチューデントアンバサダー「M-COINS」と学生広報スタッフ「むろこーほー」の合同任命式を行う

令和 8 年 6 月 19 日 (金)、デジタル・キャンパス推進スチューデントアンバサダー「M-COINS」と学生広報スタッフ「むろこーほー」の合同任命式を行いました。任命式では学長から新メンバーへ激励の言葉を添えて、認定カードとムロびよんのぬいぐるみが贈られました。

室蘭工業大学では、学生が主体となって大学の活動や魅力を発信し、より良い学びの環境をつくっていく取り組みを大切にしています。その中心的な役割を担う学生組織として、両組織は発足されました。

「M-COINS」は、デジタルキャンパスの実現に向けた本学の取り組みを学生の立場から推進するアンバサダーとして、令和 5 年度に制度を発足し、4 年目を迎える今年度は新たに 8 名のメンバーが任命されました。

学生がデジタル技術を活用しながら主体的にアイデアを形にし、学内の課題解決や大学の魅力発信に取り組むことを目的として日々活動しています。本学ではクラ

ウド型コンテンツ管理基盤「Box」を全学導入し、安全かつ効率的に情報を共有・活用できる環境を整えています。こうしたデジタル基盤の理解と活用を広げていくことも、M-COINSの重要な役割の一つです。

「むろこーほー」は令和 4 年度に発足し、今年度で 5 年目を迎えました。学生目線で室蘭工業大学の魅力を発信する広報スタッフとして、SNSでの情報発信、広報誌の取材・記事作成、さらには本学オリジナルLINE スタンプ制作など、多彩な活動を展開してきました。

今年度は過去最多タイとなる 7 名の新メンバーが任命され、活動の幅がさらに広がることが期待されます。

学生ならではの柔軟な発想や感性は、大学広報に新しい価値をもたらす大切な力であり、学生だからこそ気づける視点で、今後も本学の魅力を発信していきます。今後の学生たちの活躍に、ぜひご注目ください。



松田学長から激励の言葉を添えての挨拶



任命式の様子



M-COINSの新メンバーを代表して
認定カードを受け取る加藤さん



むろこーほーの新メンバーを代表して
認定カードを受け取る若林さん



記念撮影

文部科学省「AI for Science萌芽的挑戦研究創出事業 (SPReAD)」に本学から 3 名が採択

このたび、室蘭工業大学の研究課題が、文部科学省「AI for Science萌芽的挑戦研究創出事業 (SPReAD)」に採択されました。今回の公募における平均採択率は 2.9%であるのに対し、本学は9.7%とそれを上回る採択率となりました。

同事業は、AIを活用した科学研究の高度化・加速化を目的に、人文学から自然科学まで幅広い分野の萌芽的・挑戦的な研究課題を支援するものです。

【採択課題】

- (機械・社会基盤・エネルギー工学)

研究代表者：大学院工学研究科・教授 大石 義彦

研究課題名：データ駆動科学による空気潤滑メカニズムの解明と性能最大化

- (数学・物理学・地球科学)

研究代表者：大学院工学研究科・准教授 石渡 龍輔

研究課題名：AI支援型マルチカノニカル探索によるOVモデル共存相の希少初期状態と境界構造の高速発見

- (芸術・人文科学)

研究代表者：大学院工学研究科・教授 GAYNOR Brian,Nollaig

研究課題名：Integrating AI-based speech recognition, phoneme alignment, and human judgments of intelligibility to develop a machine learning model that maps L2 English pronunciation features onto CEFR-aligned proficiency descriptors.

本学では、今後もAIを活用した研究の推進を通じて、研究力の向上および社会への貢献を図ってまいります

【文部科学省HP】

[AI for Science萌芽的挑戦研究創出事業](#)

第54回蘭岳コンサートを開催

令和 8 年 6 月 27 日 (土) に大学会館多目的ホールにおいて、第54回蘭岳コンサートを開催し、市民、教職員及び学生103名が参加しました。

今回は、ピアニストの岡本孝慈さん、千葉理恵子さんをお招きし、ピアノ連弾・独奏～鍵盤から広がる音の旅～を開催しました。

参加者は、お二人の息の合った連弾や、高度な演奏技術に魅了され、「ピアノの連弾の演奏は、なかなか聴けないので良かったです。世界中の曲が選曲されて、大変楽しめました。」「息の合った連弾の素晴らしさに聴き惚れました。曲の出来た当時の様子の解説は面白く拝聴

しました。」などの感想が寄せられました。

今回は、令和 8 年 10 月 24 日 (土) に武田朗秀さん (ヴァイオリン)、ビジャサン バローソ ギジェルモさん (チェロ)、佐土紀久子さん (ピアノ) の室内楽コンサートを開催予定です。

なお、今回のコンサートにおいて、「令和 8 年大槌町林野火災義援金 (岩手県)」をお願いした結果、皆様から寄せられた義援金は15,801円となりました。ご協力いただきました皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、ご報告を申し上げます。



岡本さんによる独奏の様子



岡本さん、千葉さんによる連弾の様子



コンサート中のトークの様子



記念撮影

「SCSKのふるさと納税」による寄附募集開始に伴う 合同記者会見を開催

令和 8 年 7 月 6 日(月)、本学本部棟大会議室において、「SCSKのふるさと納税」による寄附募集開始に伴う合同記者会見を開催しました。

本記者会見には、室蘭市から青山剛市長、室蘭工業大学から松田瑞史学長、増田隆夫理事・副学長、北海道大学から北方生物圏フィールド科学研究センター室蘭臨海実験所 長里千香子所長、SCSK北海道株式会社から馬場亨取締役、SCSK株式会社から遠藤敦子課長が出席し、「SCSKのふるさと納税」を活用した寄附募集の開始について説明を行いました。

本学の松田学長は、「社会の皆さまから『応援したい』と思っていただけるような、意義と魅力のあるプロジェクトを提示していく必要がある。」と述べるとともに、

「地域に根ざした大学として、室蘭そして北海道から新たな価値を創出し、社会に貢献していきたい。」と今後の抱負を語りました。

また、増田理事からは、本学が現在募集している 5 つのプロジェクトについての紹介を行い、「寄附金は各プロジェクトの推進に活用されるほか、地域との共創や社会実装を見据えた研究活動の発展につなげていく。」との説明がありました。

本学は今後も、地域に根ざした工学系国立大学として、室蘭市や企業等との連携を強化し、地域社会の共創と新たな価値創出に貢献してまいります。

[SCSKのふるさと納税・室蘭工業大学の募集ページ](#)



記念撮影の様子

マラウイ大学FIT-Hubと室蘭工業大学クリエイティブ コラボレーションセンターがMOUを締結

令和 8 年 6 月 25 日、室蘭工業大学クリエイティブコラボレーションセンター（CCC）は、マラウイ大学 Food Innovation and Technology Hub（FIT-Hub）と、食品科学及び食品工学分野における学術交流・研究協力を推進するため、Memorandum of Understanding（MOU）を締結しました。

調印式はマラウイ共和国ゾンバ市のマラウイ大学で行われ、本学からはクリエイティブコラボレーションセンター長の徳樂清孝教授及び 大学院工学研究科の山中真也教授が出席しました。 徳樂教授は、マラウイ大学 Vice-Chancellor の Professor Samson Sajidu 氏とともに協定書へ署名しました。

本学とFIT-Hubとの交流は、FIT-Hub設立前の令和 7 年 3 月に、FIT-Hub副所長のPlacid Mpeketula准教授およびDickson Mazibuko講師らとの連携を開始したことに始まります。これまで両機関では、在来食用植物の

機能性に関する調査研究などを進めてきました。

本MOUは、共同研究、人材育成、研究者・学生交流及び技術交流を推進するとともに、食品科学・食品工学分野における研究協力を一層強化することを目的としています。

今後は、在来食用植物を利活用した持続可能で気候変動に強靱なフードシステムの構築に関する研究などを推進し、双方の知見を活かした国際共同研究の発展を目指します。

室蘭工業大学クリエイティブコラボレーションセンターでは、地域資源を活用した価値創出や社会課題解決に向けた活動を展開しています。今回のMOU締結を契機として、マラウイ大学との連携をさらに発展させ、研究交流及び人材交流の拡大を通じて国際的な研究ネットワークの強化に取り組んでまいります。

《調印式の様子》



調印後に握手を交わす
徳樂清孝クリエイティブコラボレーションセンター長(左)と
マラウイ大学Vice-ChancellorのProfessor Samson Sajidu氏(右)



MOU締結後の記念撮影

《関連リンク》

- [マラウイ大学 Food Innovation and Technology Hub \(FIT-Hub\)](#)
- [マラウイ大学掲載ニュース](#)
- [室蘭工業大学クリエイティブコラボレーションセンター \(CCC\)](#)

JST次世代研究者挑戦的研究プログラム 令和7年度の成果報告&令和8年度の トップオブトップアカデミーの公募説明会を開催

令和8年6月30日(火)教育・研究棟3号館N棟208講義室にて「JST次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING) 令和7年度成果報告会」および「令和8年度トップオブトップアカデミー公募説明会」を開催しました。

本プログラムは、博士後期課程の学生による挑戦的かつ融合的な研究を支援し、優秀な博士人材が多様なキャリアで活躍できるよう、研究力の向上と研究者能力の開発を促進するJSTの公募事業です。

成果報告会では、桃野理事による開会挨拶から始まり、参加学生が国内外の学会や国際会議で得た知見をもとに、自身の研究活動や成長について意欲的に発表しました。昨年度、KAUSTで開催された「THE World Academic Summit 2025」そして、「未来の博士フェス」、「GlobalNet

Workshop」の報告など、多様な経験を通じて、異分野交流・国際的な発信力・AIと教育の融合など、博士人材に求められるスキルについての考察が共有されました。

また、董晃雄事業統括より、令和8年度トップオブトップアカデミーの公募説明が行われ、今年度は、南アフリカケープタウンで開催予定のTHE World Academic Summit 2026への参加について紹介されました。董事業統括は、イノベーションの創出や将来のキャリア形成に向けて、積極的な参加と異文化交流の重要性を学生に向けて力強く呼びかけ、本報告会は盛況のうちに終了しました。本報告会を通じて、博士課程学生の挑戦的な取り組みと、国際的な視野を持った研究活動の成果が広く共有され、今後のさらなる活躍が期待されます。



桃野理事による開会挨拶



令和7年度トップオブトップアカデミー参加者の発表



「未来の博士フェス」に参加した張さんによる発表



「未来の博士フェス」に参加した小笠原さんによる発表



「GlobalNet Workshop」に参加した桐木さんによる発表



董事業統括による次年度トップオプトップアカデミーの
説明の様子

Microsoft 365 Copilot 活用の全国コンペ 「Microsoft 365 Copilot Cup 2026」で準優勝

室蘭工業大学デジタル・キャンパス推進室は、令和8年5月29日(金)に開催された「Microsoft 365 Copilot Cup 2026」(主催：日本マイクロソフト株式会社)に出場し、昨年の優勝に続き、準優勝(優秀賞)を果たしました。

本大会は、Microsoft 365 Copilot を活用した業務効率化や新たな価値創出のアイデアを競うコンペティションで、全国から12の企業・団体が参加しました。本学は其中で唯一、3大会連続の出場を果たしています。

今回本学が提案した「Microsoft 365 Copilot を活用した学習支援エージェント」は、生成AIを教育現場に実装した先進的な取り組みとして、実用性および教育効果の両面から高く評価されました。発表では、事務職員に加え、当該エージェントを実際の授業で活用した教員が登壇し、具体的な活用事例を紹介するなど、現場に根ざした実践的な取り組みが注目を集めました。

本学では、昨年度の全学事務部門における Microsoft 365 Copilot 導入を契機に、令和8年5月からは一部教員へのライセンス展開を開始し、教育・研究・業務における利活用を推進しています。今後も本取り組みを通じて、生成AIを活用した教育・大学運営の高度化を一層進めていきます。

日本マイクロソフト株式会社 コーポレートソリューション本部 業務執行役員 統括本部長 中邨 信貴 様のコメント

室蘭工業大学様が『Microsoft 365 Copilot Cup 2026』において、昨年の優勝に続き優秀賞を獲得されました。心より、お祝い申し上げます。

今回発表いただいた『Microsoft 365 Copilotを活用した学習支援エージェント スタサポ』は、生成 AIを教育現場に実装した非常に先進的な取り組みであり、実用性と教育効果の両面において高く評価させていただきました。

事務職員の皆様、実際の授業で活用された教員の方々が登壇され、現場に根ざした実践事例を共有された点は、「大学における生成AI利活用の新たなモデルを示すもの」であり、今後の「Learning Transformation (LX)」に大きく貢献、波及するものと我々日本マイクロソフトも大いに期待いたしております。

室蘭工業大学様は、全学事務部門への導入を起点に、現在は教育・研究・業務の各領域において、着実に「Microsoft 365 Copilot」の利活用を進めていただいております。日本マイクロソフトは、引き続き室蘭工業大学様との協働を通じて、信頼できるAI利活用環境の定着、並びに地域社会に貢献するデジタル人材の育成を支援してまいります。



発表の様子



日本マイクロソフト株式会社 業務執行役員
AI Workforce本部 本部長 山田氏(左)と本学発表者

本学修了生と教員がロボティクス・メカトロニクス講演会 2026 (ROBOMECH2026) において複数の賞を受賞

令和 8 年 6 月に開催されたロボティクス・メカトロニクス講演会2026 (ROBOMECH2026) において、本学も創造系領域 藤平准教授の研究グループが下記の賞を受賞し、杉原弘祐さん(本学大学院 機械ロボット工学コース：令和 8 年 3 月修了生)は、3 賞を受賞しました。なお、受賞した研究は、月島ホールディングスグループとの共同研究になります。

本講演会は、日本機械学会が主催し国内のロボティクス関連の多くの研究者が集まる国内最大規模の全国大会です。ロボティクス関連の研究者・技術者間の議論・交流・情報交換の場となっています。

【受賞内容】

- ・ ROBOMECH表彰(産業・実用分野)
(産業応用および実用化された技術成果に対して高い評価を得た研究の著者全員)
- ・ 分野融合研究優秀表彰
(分野融合研究が最も優秀な研究と評価を得た研究の著者全員)
- ・ 日本機械学会若手優秀講演フェロー賞
(優れた発表を行なった学生を表彰)

題 目：画像解析による凝集性評価支援システムの開発と評価

著 者：杉原弘祐、藤平祥孝、花島直彦、矢澤伸弘、山本稔、杉本淳、田中勉

浄水場では、水をきれいにするために凝集剤を使っています。これは水中の細かな汚れを集めて塊(フロック)にし、沈めやすくするものです。この凝集剤の最適な添加量を調べるジャーテストという試験を実施していますが、これまでは作業員が目で見えて判断していたため、人によって評価がばらつくという問題がありました。そこで本研究では、カメラで撮影した画像を画像処理技術で解析することで、このジャーテストによる凝集性の評価を定量化するシステムを開発しました。

【受賞者のコメント】

この度、ROBOMECH2026において3つの賞を受賞することができ、大変光栄に存じます。本研究にご協力いただいた関係者各位に深く感謝申し上げます。誠にありがとうございます。本受賞を励みに、今後も社会人として研究開発活動に取り組んでまいります。



記念撮影：杉原弘祐さん(右から2番目)、藤平准教授(右)



左から、花島副学長、杉原さん、藤平准教授



授与された盾とメダル

総務省「持続可能な電波有効利用のための 基盤技術研究開発事業（FORWARD）」に 本学から 2 課題が採択

総務省の競争的研究費である「持続可能な電波有効利用のための基盤技術研究開発事業（FORWARD）」の令和 8 年度研究開発課題公募において、本学から提案した 2 課題が採択されました。

FORWARD（Fundamental Technologies for Sustainable Efficient Radio Wave Use R&D Project）は、有限な電波資源の有効利用を持続可能なものとするともに、地域課題の解決や地域ニーズに対応するワイヤレスデジタル基盤の構築に資する研究開発を推進することを目的とした競争的研究費制度です。令和 8 年度は全国から 53 件の応募があり、15 件が採択されました。

北海道総合通信局管内では 3 件の応募があり、そのうち採択された 2 件はいずれも本学の研究課題でした。全国 15 件の採択課題のうち 2 件を本学が占める結果となりました。

《採択課題》

橋梁の持続的維持管理に資するIoSARシステムの研究開発

研究代表者：泉 佑太 准教授（大学院工学研究科）

本研究は、千葉大学環境リモートセンシング研究センターのJosaphat Tetuko Sri Sumantyo教授との共同研究として実施されます。また、本学からは小室雅人教授及び瓦井智貴助教が研究分担者として参画します。

我が国では、高度経済成長期に整備された橋梁の老朽化が進行しており、特に地方自治体では、技術者不足や財政的制約の下で持続可能な維持管理が課題となっています。本研究では、非接触で高精度な変位・振動計測が可能な合成開口レーダ（SAR）、特にMIMO-SAR技術を活用し、橋梁の中長期連続モニタリングを実現する「IoSAR（Internet of SAR）」技術を開発します。これにより、橋梁の異常兆候を早期に検知し、予防保全型インフラ管理への転換を目指します。

セマンティック通信とLPWAを活用した獣害対策向け 広域IoTシステムの研究開発

研究代表者：李 鶴 准教授（大学院工学研究科）

本研究は、酪農学園大学の伊吾田宏正教授との共同研究として実施されます。また、本学からは北沢祥一教授、徳樂清孝教授及びMONOづくりみらい共創機構の永井展裕特任准教授が研究分担者として参画します。

近年、野生動物による農林業被害や生活環境への影響が全国的な課題となっています。本研究では、通信インフラが十分に整備されていない地域における獣害対策の高度化を目的として、セマンティック通信とLPWAを統合した広域IoTシステムの構築を目指します。従来の画像・動画の生データ伝送に代わり、動物種別・位置・行動などの意味情報のみを抽出・伝送することで、通信量及び消費電力を大幅に削減し、広域かつ長期的な運用を可能とします。さらに、AIによる出没検知、行動解析及び危険度判別を統合することで、リアルタイムな意思決定支援を実現します。本研究開発により、電波資源の有効利用と持続可能な獣害対策基盤の確立を目指します。

本学では今後も、情報通信技術を活用した社会課題の解決や地域社会の発展に貢献する研究を推進し、その成果の社会実装に取り組んでまいります。

関連リンク

• [北海道総合通信局：持続可能な電波有効利用のための基盤技術研究開発事業（FORWARD）の令和 8 年度研究開発課題の公募結果](#)

• [総務省 電波利用ホームページ（FORWARD）](#)

寄附講座「道路防災・維持管理工学講座」 設立記念シンポジウムを開催

令和 8 年 7 月 3 日(金)に、寄附講座「道路防災・維持管理工学講座」の設立記念シンポジウムを関係者83名の出席のもとに開催しました。

同シンポジウムは、令和 8 年 4 月 1 日に一般財団法人北海道道路管理技術センター、一般社団法人北海道開発技術センター、株式会社ドーコン及び株式会社構研エンジニアリングの 4 社による寄附講座が開設したことを記念して開催されたものです。

はじめに、一般財団法人北海道道路管理技術センター理事長の谷村昌史氏から開会の挨拶をいただいた後、木

幡行宏特任教授から設立の経緯について説明がありました。

シンポジウムでは、株式会社ドーコン地質部技師長小林修司氏から「道路防災に関する研究事例」、株式会社構研エンジニアリング地質部次長菅原正則氏から「路盤・路床の維持管理に関する研究事例」、浅田拓海准教授から「アスファルト舗装の維持管理に関する研究事例」及び木幡特任教授から「北海道における道路防災・維持管理に関する今後の課題」について講演が行われました。



講演する木幡特任教授

台湾国立屏東大学 陳永森学長らが 室蘭工業大学を表敬訪問

令和 8 年 7 月 1 日(水)、本学の協定校である台湾・国立屏東大学から、陳 永森学長と陳 皇州国際事務所長が本学を訪問されました。

本学と国立屏東大学は、2023年 8 月に大学間学術交流協定を締結して以来、学生の双方向派遣を継続的に実施しており、短期研修プログラムや共同研究などを通じて交流を深めてきました。これまでに両大学間では学生交流が活発に行われ、教育・研究分野における連携も着実に発展しています。

今回の訪問では、松田瑞史学長への表敬訪問が行われ、増田隆夫理事をはじめとする本学関係者と懇談しました。懇談では、これまでの交流成果を振り返るとともに、今後の教育・研究連携や学生・教職員交流のさらなる充実

について活発な意見交換が行われました。

また、一行はウポポイ（民族共生象徴空間）を訪れ、アイヌ文化に関する展示や伝統芸能を見学するとともに、公益財団法人アイヌ民族文化財団の常本照樹理事長を表敬訪問しました。台湾南部における原住民族研究・教育の拠点である国立屏東大学と、アイヌ文化の振興・継承に取り組む同財団との間で、先住民族文化をテーマとした今後の教育・研究連携の可能性について懇談が行われました。

今回の訪問を通じて、両大学の友好関係は一層強化され、今後も学生交流や共同研究をはじめとする教育・研究分野での連携がさらに発展することが期待されます。



屏東学長表敬訪問集合写真

外部資金

民間等との共同研究の受入れ

研究代表者・職・氏名	相手方区分	金 額 (千円)
もの創造系領域 教 授 有 村 幹 治	大 企 業	1,000
もの創造系領域 教 授 安 藤 哲 也	大 企 業	2,000
もの創造系領域 教 授 内 海 政 春	国	1,206
もの創造系領域 教 授 内 海 政 春	大 企 業	1,560
もの創造系領域 教 授 大 石 義 彦	中 小 企 業	2,513
もの創造系領域 教 授 川 口 秀 樹	大 企 業	130
もの創造系領域 教 授 濱 幸 雄	大 企 業	1,000
もの創造系領域 助 教 高 橋 一 弘	大 企 業	3,250
しくみ解明系領域 教 授 神 田 康 晴	大 企 業	2,600
合 計 (9 件)		15,259

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

受託研究等の受入れ

研究代表者・職・氏名	委託先区分	金 額 (千円)
もの創造系領域 教 授 高 瀬 裕 也	大 企 業	1,087
もの創造系領域 准教授 中 田 大 将	そ の 他	20,387
合 計（2件）		21,474

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

その他の補助金の受入れ

事業名	研究代表者・職・氏名	事業元	金額 (千円)
AI for Science萌芽的挑戦研究 創出事業 (SPReAD) (第1回)	もの創造系領域 教授 大石 義彦	文部科学省	3,900
AI for Science萌芽的挑戦研究 創出事業 (SPReAD) (第1回)	しくみ解明系領域 准教授 石渡 龍輔	文部科学省	3,900
AI for Science萌芽的挑戦研究 創出事業 (SPReAD) (第1回)	ひと文化系領域 教授 GAYNOR Brian,Nollaig	文部科学省	1,739
合 計 (3 件)			9,539

奨学寄附金の受入れ

寄 附 者	目 的	金 額 (千円)
個人寄附者（１件）	工 学 研 究 助 成	200
幌清株式会社	工 学 教 育 助 成	100
一般財団法人北海道建設技術センター	工 学 研 究 助 成	2,200
日鉄テックスエンジニアリング株式会社	工 学 研 究 助 成	300
個人寄附者（１件）	工 学 研 究 助 成	1,000
個人寄附者（１件）	工 学 研 究 助 成	2,000
日本データーサービス株式会社	工 学 研 究 助 成	300
株式会社クレスコ・ネクシオ	工 学 教 育 助 成	150
巻き込みジオグリッドカルバート基礎補強工法研究会	工 学 研 究 助 成	250
公益財団法人三菱財団	工 学 研 究 助 成	1,990
一般社団法人日本溶接協会	工 学 研 究 助 成	300
東亜グラウト工業株式会社	工 学 研 究 助 成	600
東亜グラウト工業株式会社	工 学 研 究 助 成	600
一般社団法人北海道環境保全技術協会	寄 附 講 座	1,000
合 計（14件）		10,990

人 事

人 事 異 動

国立大学法人
室蘭工業大学長発令

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和 8 年 7 月 31 日	〈辞 職〉	SHARMA SANDHYA	大学院工学研究科 博士研究員
令和 8 年 7 月 31 日	〈退 職〉	地 主 諒 佑	ものづくり基盤センター 技術補佐員
		田 代 琢 真	ものづくり基盤センター 技術補佐員
		對 島 颯 太	ものづくり基盤センター 技術補佐員
		原 珠 栄	ものづくり基盤センター 技術補佐員
令和 8 年 8 月 1 日	〈採 用〉 クリエイティブコラボレーションセンター 事務補佐員	佐 孝 まゆり	

学内会議

学内各種委員会等の開催

< 6月25日～7月24日 >

開催日時 令和8年7月7日(火)

会議名 第6回企画戦略会議

開催日時 令和8年7月9日(木)

会議名 第3回大学院工学研究科博士後期課程専攻長会議

開催日時 令和8年7月14日(火)

会議名 第10回役員会

開催日時 令和8年7月16日(木)

会議名 第11回役員会

開催日時 令和8年7月16日(木)

会議名 第4回教育研究評議会

学内行事

- 6 月27日(土) 第54回蘭岳コンサート
- 7 月 1 日(水) 辞令交付
- 7 月14日(火) 合格発表【2027年度 4 月入学大学院博士前期課程推薦入試・2027年度 4 月入学高等専門学校専攻科修了生入試・2026年度 10月入学大学院博士前期課程外国人留学生入試(国外出願)】
- 7 月24日(金) 合格発表【令和 9 年度編入学一般入試】

学外行事

- 6 月29日(月) 国立大学協会令和 8 年度第 1 回通常総会(30日まで)(東京都)
- 7 月 4 日(金) 令和 8 年度 第43回天城学長会議(5日まで)(静岡県)
- 7 月22日(水) 北洋銀行ものづくりサステナフェア2026(札幌市)
- 7 月24日(金) 国立大学協会令和 8 年度第 3 回理事会(東京都)

室蘭工業大学 人物図鑑

室蘭工業大学に所属する教員・職員に
専門分野、業務内容、室工大の
Good Pointなどを聞いてみました。

- ①専門・業務内容
- ②室工大のGood Point
- ③室工大で好きなspot



Part
53

真境名 達 哉



- ①教授、建築計画学（使い方から建築を考える学問です）
- ②国立ならではの少人数教育、就職が強い、研究がしっかりできる。
- ③窓から見える身近な山、急速に変化する景観に感動。

Part
54

岡 田 昌 樹



- ①特任教授、機械設計・経営学、女子中高生の理系進路選択支援
- ②総合型選抜における女子枠
- ③ロボットアリーナ

編集後記

◆ 北海道の夏は短く、室蘭もお盆を過ぎると、秋がすぐそこに！

朝晩の肌寒さを感じはじめています。

先日は、今年の冬は雪が多いか、少ないか話もお約束のようにチラホラ聞えていました。

8月に開催しました本学のオープンキャンパスでは、夏の太陽に負けないくらい輝かせた表情で見学している、たくさんの学生さんたちと出会うことができました。

当日は、あいにくの雨でしたが、たくさんの方々にお越しいただきまして、ありがとうございました。

この夏の出会いが、それぞれの未来につながる一歩となっていたら嬉しいです！

そして、またここ室蘭でお会いできることを楽しみにしています。



～決めポーズのつもりムロびょん～

(Garoon：総務広報課秘書広報係、E-mail：koho@muroran-it.ac.jp)

(総務広報課秘書広報係)



室蘭工業大学のキャラクター「ムロびょん」

■編集発行

室蘭工業大学総務広報課
〒050-8585 室蘭市水元町27番1号 電話 0143-46-5008

■印刷所

株式会社日光印刷
電話 0143-47-8308